

ルベシ青柳ノ意見モ同様ナリ

一四六 十二月十一日 在内田外務大臣宛(ヨリ)  
在サンパウロ藤田總領事宛(電報)

サンパウロ州珈琲耕地行移民ニ対スル補助契約復活運動推進方ノ件

第三五号  
サンパウロ州珈琲耕地行移民ニ対スル補助契約復活ノ義貴地海輿支店青柳運動中ナル處目下本邦ニテハ失業者問題ノ官民間ニ研究セラルル際該補助金ノ廃止ニヨリ渡航者ノ減少ヲ來ス如キハ憂フベキコトナルニヨリ貴官ニ於テモ青柳ノ運動ニ可及的助力セラレ一面現在ノ成行電報セラレタシ

一四七 十二月十一日 在サンパウロ藤田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)  
サンパウロ州珈琲耕地行移民ニ対スル補助契約復活運動ニ関シ意見稟申ノ件

第三三一號  
(十二月十三日接受)

貴電第三五号ニ関シ  
「イタリー」新内閣ハ移民ヲ伯国ニ送ルニ熱心ナル趣ニシテ São Paulo 州政府申出条件ニ対シ種々ノ註文ヲ出シ

第三三二號

(十二月十三日接受)

貴電第三五号ニ関シ

## 事項一一「メキシコ」革命動乱関係一件

一四八 三月九日

在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

対墨武器彈薬ノ輸出ハ日下禁止セザルベキ旨

米國國務省公表ノ件

第一〇四号

(二月十日接受)

往電第一〇一一号ニ関シ

墨国ニ対スル武器彈薬ノ輸出ハ從来千九百十二年三月ノ共

同決議ニ基キ発セラレタル千九百十九年七月大統領令ニ依

リ禁止中ナリシ処右決議及大統領令ハ一月三十一日共同決

議成立ト同時ニ当然消滅シタルニ付右禁止ヲ繼続センガ為

ニハ新ニ右一月三十一日共同決議ニ基キ大統領令ノ公布ヲ

要スル次第ナルニ依リ三月七日國務省ハ対墨武器彈薬ノ輸出ハ日下ノ処之ヲ禁止セザルベキ旨公表セリ

墨ヘ転電セリ

(附屬書)

三月七日附対墨武器輸出解禁ニ関スル國務省公表文(乙号)

一四九 三月十日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛

一一一 「メキシコ」革命動乱関係一件 一四八 一四九

ツツアリ当地官民ハ好都合ニ進行スルモノト信シ居レリ  
若シ此ノ交渉成立スレハ毎月一千(1000)人宛到着スヘ

シト云フ故ニ日本移民補助問題ヲ此ノ際申出ソレハ鼻息荒ク忽チニ撥附ケラルル虞アルニ付青柳モ其成行ヲ見タル上

運動スル筈ニシテ小官モ其ノ機会ニ於テ十分尽力スヘシ貴電ノ失業者トハ純農者ニ非スシテ職工軍人等ノ謂ナラン

日本ニ純農者中多數ノ失業者アルヘクモ思ハレス今回到着ノ神奈川丸移民ヲ見ルニ純農者一割他ハ坐食ノ徒ニシテ傭被傭者共失望シ移住ノ目的ヲ達スルコト困難ナラン São

Paulo 州政府モ将来斯ル輩ハ補助セサルヘシ、此ノ輩ノ救濟トシテ伯国ニ移植民セシムルヲ良計ナリトセハ外國政府ノ補助ヲ期待セス我政府進ンテ渡航費ヲ補助サルルコト然ルヘキカ渡航費補助問題ハ去月二十日附機密第六号ヲ以テ愚見上申セリ然リト雖小官ハ純農者以外ノ者ノ当國ニ移植スルハ不成功ニ終ルヘシト確信ス

Mexico.

The embargo on the exportation of arms or munitions of war from the United States to Mexico established by the Presidential proclamation of July 12, 1919, having been terminated by the joint resolution of Congress approved January 31, 1922, which repealed the joint resolution of Congress approved March 14, 1912, which authorized the embargo, the Department will not re-establish the embargo at this time. However, the last-mentioned resolution authorizes the establishment of the embargo by Presidential proclamation if that should at any time appear desirable.

Note. The foregoing statement was issued by the Department of State on March 7, 1922. Issuance on that date, however, did not necessarily imply that the Mexican Arms embargo was terminated on March 7, but that that embargo

得ルリムテ相成リ候結果從前ノ決議及大統領令ハ自然消滅ニ帰シ候為今後米国「於テ可続キ墨国」对ノ武器弾薬ノ輸出ヲ禁止ヤハレバ更ニ改メテ大統領令ハ公表セキル日ハナルリムテ相成リ候處米國國務省ハ於トハ先般米在墨代理大使ヲシテ墨国政府ト因文渉ヤシメ墨国側ハ於トハ内乱鎮定ヤルヲ以テ禁輸解禁差支ナシトヘ意回ハ確ヘタル上本月七日ハ此際特ニ右ハ閣スル大統領令ハ發布ベシロトナク且輸出禁止ヲ為サギル同キ旨發表致シ候右及報知候也

(略属)

「武器弾薬輸出禁制」米國國務省共同決議

[Public Resolution—No. 37—67th Congress.]

〔S. J. Res. 124.〕

Joint Resolution To prohibit the exportation of arms or munitions of war from the United States to certain countries, and for other purposes.

*Resolved by the Senate and House of Representatives of the United States of America in*

111 「メキシコ」軍需輸出禁制 1号 1110

was terminated on January 31, 1922, upon the effective date of the Joint Resolution S. J. Res. 124, Public Resolution 37, approved on January 31, 1922.

1110 1111-1112 杜慶國伊藤臨時代理公使  
名田外務大臣秘

米國政府方輸出ノ禁止ル試験課ノ輸出禁制

ノ競争セル血脉期ノ生

歐川公信第六回印  
(四月八日接収)

大正十一年三月廿二日

在署

臨時代理公使 伊藤 敬一 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉

米國ガ墨国ニ攻ム從来武器弾薬ノ輸出ヲ禁止ヤルハ一千九百十一年三月ハ共同決議ニ基ケル千九百十九年七月ハ米國大統領令ハミニ実施セラノ來リタルヤハ有之候處過般米國國令ハ承認ハシタル本年一月三十一日ハ官命ハミニ米國大統領ハ接壤國ニ攻ム何時リトモ武器弾薬ノ輸出禁止ヲナシ

*Congress assembled,* That whenever the President finds that in any American country, or in any country in which the United States exercises extraterritorial jurisdiction, conditions of domestic violence exist, which are or may be promoted by the use of arms or munitions of war procured from the United States, and makes proclamation thereof, it shall be unlawful to export, except under such limitations and exceptions as the President prescribes, any arms or munitions of war from any place in the United States to such country until otherwise ordered by the President or by Congress.

Sec. 2. Whoever exports any arms or munitions of war in violation of section 1 shall, on conviction, be punished by fine not exceeding \$10,000, or by imprisonment not exceeding two years, or both.

Sec. 3. The joint resolution entitled "Joint

resolution to prohibit the export of coal or other material used in war from any seaport of the United States," approved April 22, 1898, and the joint resolution entitled "Joint resolution to amend the joint resolution to prohibit the export of coal or other material used in war from any seaport of the United States," approved March 14, 1912, are repealed.

Approved, January 31, 1922.

1151 11月10日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

### 米國ノ墨國承認問題ニ關ハ新聞掲載ノ論説

#### 報ノ件

附屬書 ラフアーホル、ニコト氏論説「条約ノ締結ト承認」訳文

(四月八日接受)

大正十一年三月十日

在墨

臨時代理公使 伊藤 敬一 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

米国政府カ墨国承認ノ条件トシテ憲法第三条、第二十七条及第三十三条ノ改正、革命及土地没収ニ基因スル損害賠償締結ヲ要求シ墨国政府ニ於テハ是レ國家ノ威信ヲ損傷スルモノナル而已ナラズ憲法改正ハ大統領ノ権能ニ非ズト称シ米国ノ提議ヲ退ケタル趣ハ既報ノ通ニ有之候處昨今又々承認問題ノ論議セラルルニ際シ「カラムサ」政府ノ大蔵次官タリ現在「サン、ルイス、ボルティー」州知事タル「ラフアーホル、ニコト」氏ハ「条約ノ締結ト承認」ナル題下ニ別紙訳文ノ如キ「論文ヲ墨市發行「ホル、ウニヴヨルサー」紙ニ寄稿致シ候ニ付御参考ノ為右訳文供貴覽候也

#### （附屬書）

ラフアーホル、ニコト氏論説「条約ノ締結ト承認」訳文

(1)月11日「エル、ウニヴヨルサー」紙掲載)

嚮ニ「バーディング」大統領ハ其高調セル宣言ニ於テ墨国政府ヲ承認スルニ先チ一條約ノ締結ヲ要望スルヤ「オブレーン」大統領ハ之ニ劣ラザル語調ヲ以テ墨国憲法ニ抵触スル條約締結ノ拒絶ヲ宣言セリ。而シテ米国ニ於テハ多ク

「オブレーン」大統領ヲ頑冥不盡ナリト日シ墨国ニ於テハ同ジク「バーディング」大統領ヲ剛腹執拗ナリト為ス。於是乎曖昧模糊タル國際關係ハ無期限ニ延長セラレ米墨両政府ヲ離間スル猜疑不信ハ其度ヲ増大ス。サラバ此葛藤タルヤ根本的ニ解決シ能ハザルモノナリヤ將又何等和解ノ余地ヲ有スルモノナリヤ否ヤ。眞実ヲ言ヘバ承認ハ墨国ニトリテ經濟的ニ大ナル価値ヲ意味スルモノニ非ズ。蓋シ米墨商業關係ハ其根本ニ於テ承認ノ有無ニ拘ラス同一ナレバナリ。多数人ハ甚ダ無造作ニ承認ナルモノガ恰カモ魔法棒ノ夫レノ如ク即刻ニ福利ヲ墨国ニ持來スベシト想像スルモ之レ深刻ナル世界的恐慌ガ吾ガ政府ノ承認セラルルト然ラザルトニ論ナク其破壊的効果ヲ墨国ニ及ボンツアルヲ考慮セザルニ因ル。之ヲ外交的立場ヨリ看ルニ承認ハ何等感謝スベキ利益ヲ吾国ニ与フルモノニ非ズ。吾人ハ吾人ノ経験ヨリシテ承認ノ有無ニ拘ラズ國際の重要な案件ガ直接間接ニ両国外務省間ニ交渉セラレ大使ノ徒ラニ贅物ナルノミナラズ、少クトモ当分ハ徒ラニ高価ニシテ且不必要ナル使臣ニ費用ヲ給与セザルノ利益アルコト知ル。然リト雖吾人ハ是非共米国ノ承認ヲ要スル或モノヲ有ス、而シテ其或モノトハ

則チ吾国ノ安寧ニ関スルモノナリ。換言セバ、華盛頓政府ノ頑強ヲ緩和セズシテ荏苒タルモノアルニ於テハ米国金權者ノ公々然タル跋扈ヲ促進シ国民的不安ヲ増進スルノ危険ヲ感ズルコト之ナリ。即チ吾人ハ最近數週間に於テ米墨ノ国境方面ニ叛逆的行動ノ頻発シ、又所在ニ連絡ナキ謀叛ヲ見タルガ、惟フニ斯ノ如キ行動ハ蓋シ米国政府ノ態度ニ刺戟セラレ感電セルヨリ發生セルモノニシテ此等ノ叛逆ハ恐らく不知不識ノ間ニ米国ノ金力の帝国主義勢力ニ其援助ヲ求メタルモノナレバ若シ承認ニシテ實現セラレナバ之等ハ悉ク榮養不良ニ陥リ忽ニシテ消滅ス可キナリ。之レ即チ米国ノ承認ガ吾国ニ与フ可キ唯一ノ利益ナリ。吾人ノ國際的葛藤ハニ経済的葛藤ナルガ故ニ吾ガ外務省ノ活動ハ寧ロ第一義ニシテ大蔵省ノ努力コソ第一義タラズニアラズ。何トナレバ米國側ニ於ケル唯一ノ裁決者ハ同國ノ銀行業者ニシテ、彼ノ石油業者ノ如キハ表面吾国ニ反抗的態度ヲ執レルモ其真相ヲ究ムレハ「ウォール、ストリート」ヨリ操ラルル傀儡ニ過ギズ、又米国政府ト雖モ（吾人ノ直感ヲ披瀝スルヲ諒セヨ）彼等資本家ノ甚ダシキ圧迫ヲ被ルコト余リニ多ケレバナリ。而シテ或ハ無遠慮ノ譏ヲ免レザランモ

吾人ノ看ルトヨロニ依レバ一度「ウォール」及「ブロード」街ノ一角ヨリ華府ニ向ッテ『デ、ラ、ウエルタ』トノ協調成レリ』ト通信セラレンカ即チ最速ノ無線電信又ハ海底電信ハ米國ノ承認ヲ伝ヘ来ランコト必然タレバナリ。而シテ前記協調ニ関シ一般公衆ノ聞知セル範囲ニ於テハ「デ、ラ、ウエルタ」ハ賤陋卑劣ヲ避ケ卒直静平且識見ニ富メル財政政策ヲ提ケテ「ウォール、ストリート」ト相対峙セリト伝ヘラルモ而カモ尚一ノ誤謬ヲ敢テセリ。即チ右協議ノ一部分ヲ秘密ニ付セルコトニシテ当今ノ時代ニ於テ国民死生ノ問題ニ斯ノ如キ秘密ヲ包ムハ甚ダ好マシカラザルコトト云フ可シ。然リ、其財政政策ニ怯卑ヲ現ハサザリセバ吾人ハ何ガ故ニ白堦館ノ採用セル「ウォール」内相ノ条件ニ関スル外交的談判ノ前ニ戦慄スルノ必要アランヤ。而シテ今ヤ「ハーディング」大統領ハ承認ニ先チテ吾人ニ一條約ヲ要望スルモノナレバ、吾人ハ宜シク之ヲ討議スルニ躊躇セザルヲ要ス、蓋シ米墨両国代表者ガ其談判ヨリ実際的結論ヲ得ヘキヤ否ヤハ須ラク別問題トスルモ吾人ハ此ノ種討議ヨリ何等ノ光明ヲ見出シ得可ケレバナリ。

嘗テ「ウイルソン」大統領ハ「チウアウア」州ヨリ米國軍

ヲト」要求ヲ吾人ニモ強要センガ為メ將又吾人ノ法律ヲ改變センガ為メ經濟的圧迫若クハ兵力ヲ以テ吾人ニ臨マントスル意思ヲ有スルニ於テハ吾人ハ直ニ之ヲ感知スルヲ得ベク、而シテ之ハ宜シク世界ノ公論ニ訴ヘ國際的輿論ノ公正ナル裁決ヲ待ツベキナリ。

一一五二 三月十七日 在墨国伊藤临时代理公使ヨリ

内田外務大臣宛

### 米国ノ墨国承認ニ關スル新聞論評訳報ノ件

附屬書 ボレチン、フィナンシェロ掲載論評「墨国現政府承認問題」訳文

三月十日附ボレチン、フィナンシェロ掲載論評「墨国現政府承認問題」訳文

墨国現政府承認問題

米国政府ノ墨国現政府承認問題ハ從來屢々論セラレタル所ナルガ近時ニ至リ重ネテ世論ノ主題トナリ最早論ジ尽サレタル問題ナルニ拘ラズ今更ノ如ク種々ノ評論意見發表セラルニ至レリ、而シテ最近某新聞紙上ニ於テ前ノ大蔵省一高官ガ発表セシ意見中始メニハ米国ノ承認ガ墨国ニ対シ何等經濟的影響ヲ及ボスモノニ非ズト云ヘルニ拘ラズ中段ニ至リテ米国政府トノ外交關係ハ純然タル經濟問題ナリト云ヘルガ如キハ大ニ世人ヲ惑ハシムルモノアリ。

吾人ハ本問題ハ政治的ナルト同時ニ經濟的ノ性質ヲ有スモノナリト思考ス、若シ夫レ吾国民ニシテ思慮深ク勤勉ニシテ且平和ニ実際ナランカ、承認ノ如キハ全然外交儀礼タルニ過キザル可シト雖モ、今猶国内騷擾ノ絶ユルコトナク、常ニ政變ヲ予期スベキ隱然タル傾向ヲ有スル国民ナルニ過キザル可シト雖モ、今猶国内騷擾ノ絶ユルコトナク、常ニ政變ヲ予期スベキ隱然タル傾向ヲ有スル国民ナルノ通リ及報告候也

(附屬書)

一一一「メキシコ」革命動乱関係一件 一五

隊ヲ撤退セシムルニ先チ一条約ヲ要望セリ。而カモ米墨代表者ガ數ヶ月ニ亘リ論議ヲ重ネツツアリシ間ニ米國軍隊ハ全然無条件ニ且墨國ノ主權ト尊嚴トニ抵触スル何等ノ公約ヲ得ズシテ「チウアウア」州ヨリ撤退ヲ了セリ。而シテ當時ニ於ケル墨國委員ノ報告ヲ閱スルニ米國委員ハ暗ニ其嘗テ攻馬ニ為セル「プラット」要求ノ如キヲ墨國ニモ適用セシム希望ヲ仄カセルコトヲ發見セリト云フ、然ラバ現共和党政府モ亦此希望ヲ繼承スルモノナリヤ否ヤ、何為ゾ吾人ハ恐怖ナク断々乎トシテ正面ヨリ之カ談判ニ當ラザルヤ。華盛頓政府ガ墨國承認ニ先チテ締結セント欲スル条約ニ関シ吾人ニ示セル条件ハ二個アリ。損害賠償及國境問題ニ関スル委員ノ件其一ナルモ之ハ敢テ困難ナル問題ニアラズ、而シテ他ノ一ナル墨國憲法第三条及第二十七条ヲ米國臣民ニ適用セザルノ条件ニ至リテハ吾人断ジテ之ヲ許容スル能ハザルモノナリ。惟フニ米國代表者ト雖モ広寛ナル意見ヲ持シ公平無私ノ批判ヲ以テ其討議ニ臨マンカ、第二条件ノ許容シ得ザル所以ヲ感知シ、公道ヲ基礎トシ吾國ノ制度法律ニ抵触セザル条件ヲ以テ協約ヲ締結スルコト必ズシモ困難ナラザルニ至ルベシ。若シ然ラズシテ米國ガ「プラ

## 一二 「メキシコ」革命動乱関係 一件 二五二

三三六

世界ニ紹介サルルノ已ムヲ得ザルニ至ラシムルモノナリ。

上叙ノ事情ハ因ヨリ白亜館當局者ノ知悉スル所、而シテ此ノ吾人ノ弱点コソ即チ米國政府ノ大ニ乗ゼントスル所ニシテ、承認ヲ以テ恰カモ大ナル恩恵ノ如クナシ、之ガ代償トシテ種々ノ利益ノミカ進ンデ特權ヲモ要求セントスト雖モ、コハ我国ノ体面上到底首肯シ能ハザル所ナリ。

斯ノ如キ米政府ノ強請ニ対シ墨国政府ハ断乎タル態度ヲ持シ以テ之ニ対抗スルニ決シ、ヨシ之ガ現政府ノ没落ヲ惹起スルニ至ルトモ、曖昧タル今日ノ友ヲ持ツヨリ、其ノ失脚ヲ原因スル明カナル敵ヲ持ツニ若カズトナセリ。又我墨国内ニ於テ個人的野心及ビ兇惡ナル政治家ノ為メニヨリテ醸成セラル不断ノ叛乱、革命、暴動等總テ公安秩序ヲ乱ス擾亂ナクンバ米墨外交關係ガ今日ノ如ク異常ナル状態ニ在ル限り、承認ノ如キハ抑モ些末ノ問題ニシテ敢テ我内政及一般經濟ニ何等意義アル影響ヲ及ボスモノニ非ズ。

然レドモ我國ノ擾乱、組織的平和ノ破壊及政府ノ顛覆ニ関シ直接間接ノ煽動者タル北隣國ト良好ノ調和ヲ保チ能ハザルコトハ即チ国人ヲシテ我最鞏固ナル基礎ヲ有スル政府ニ對シテサヘモ其安定ヲ疑ハシムルニ至ル幾多ノ前例アルヲカラザル事実ナリ。

然レバコソ其ノ承認ニ対シ大ナル意義ヲ附シ且吾カ国民性格ノ弱点及前例ヲ利用シ承認ノ代償トシテ各種ノ利益ヲ獲得セント企図スルニ非ズヤ。

要之目下ノ状態ニアリテハ米國ノ承認ハ我国内擾乱ノ胚種ヲ絶滅シ、平和ヲ確立シ、現政府ノ安定ニ対スル世人ノ信頼ヲ持來タスニ最モ有効ナル手段ナル可シ、故ニ現墨国政府ハ民衆ノ信頼ヲ鞏固ナラシムル為メ米國トノ國交ヲ恢復スルヲ要シ、民衆ヲシテ政府ニ信頼セシメ持続スヘキ經濟的改善及一般ノ活動ニ専念セシムル為メニハ承認ヲ得タル政府ノ保障ヲ要ス。

是レ即チ吾人カ承認問題ハ政治上及經濟上二個ノ局面ヲ有シ、又常態國家ノ如ク承認カ一ノ外交儀礼タルニ止ラズトナス所以ナリ。

如何センヤ。

而シテ斯クノ如キハ即チ吾人カ市民トシ将タ愛國者トシテノ義務ニ關シ有シタル觀念及ビ國家ノ名譽ノ前ニ於テ個人の野心ガ奈辺ニ局限セラル可キヤニ付キ吾人ガ持シタル觀念ノ慾テル結果トシテ生ジタル悲シム可キ心理状態タルナリ。故ニ若シ上述ノ如キ実情ナントセバ、政治家タルト將タ然ラザルト論ナク社会各階級ヲ挙ゲテ熱望シテ止マザル所謂米國ノ承認ナルモノハ吾人ニヨリ單ナル外交的形式ニ過ギズシテ我涉外關係ノ些細ナル一事件ト謂フヲ得ベシ。故「ディアス」將軍政府ノ当初ニ於テ米國政府ハ今日ト同シク頑強ニ其承認ヲ肯ゼザリシガ、後ノ独裁政治家タリン同將軍ハ更ニ之ヲ顧ズ、專心国内ノ平和ヲ維持シ社会的活動ヲ常規ニ復セシムルニ止メ毫モ承認問題ヲ介意セザルガ如ク見エタリキ、蓋シ大ナル世界的家族ノ一員タル墨国ハ、斯カル國際關係ニ就キ承認ヲ拒ミシ國家程其必要ヲ認メザリシヲ以テナリ。

然レバ数ヶ月否一年有余ヲ経タル後ニ至リ、華盛頓政府ハ突然自發的ニ墨国政府ヲ承認シ外交經濟上誠実ナル關係ヲ開始スルニ決セリ。固ヨリ「ディアス」將軍當時ニ於テハ

### 墨国最近ノ情勢ニ關シ報告ノ件

歐三公信第八一號

(五月一日接受)

大正十一年三月二十三日

在墨

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

墨国最近ノ騒乱ニ關スル件

千九百二十年五月ノ政變ニ於テ「カラランサ」政府没落シ「デ、ラ、ウエルタ」政府暫ラク之ニ代リ其後現「オブレゴン」政府ノ時代ニ入ルヤ「カラランサ」時代所在ニ出没セル叛徒漸ク其姿ヲ潜メ国内全ク平定ニ帰セルノ観ヲ呈シ今日ニ及ビ候處近時ニ至リ久シク政權ニ渴セル不平ノ徒次第ニ抬頭ノ傾向ヲ示シ来リ又一方国外亡命ノ徒ガ米國ノ墨国承認問題ガ今猶未解決ナルニ乘ジ窃カニ野望ヲ抱クアリ、又墨現政府ノ施政ヲ不便トスル米國石油業者銀行業者等ガ之等不平ノ徒ト氣脉ヲ通ジ陰謀画策ニ狂奔スト噂セラルアリ現政府ノ前途ニ対シ一部ニ悲觀論者ヲ見ルニ至リ候ニ付最近勃発ノ一二三事件ニ關シ其真相左ニ報告申進候

一、目下米國ニ亡命中ナル「ゴンサーレス」將軍ガ米國石油

業者ヲ中心トスル「在墨米人利益保護協会」(Asociación Protectora de los intereses americanos en México)ト提携シ現政府倒壊ノ陰謀ヲ企テ之ガ実現ニ着手スルニ先チ失敗ニ了レリトノ噂ハ著シク墨国民ノ神経ヲ刺戟セリ、米国石油業者及「ゴンサーレス」將軍ガ何故ニ現「オブレゴン」政府ニ対シ反感ヲ抱クヤニ閑シテハ從来ノ歴史ヲ一瞥スルノ必要アリ、由來米国石油業者ハ墨国憲法第二十七条ノ適用ニ閑シ執拗ニ自己ノ利益ヲ主張シテ止マザルモノニシテ「カラランサ」政府ハ前記第二十七条ガ過及的効力ヲ有セザルモノナルヲ声明シ一時ヲ糊塗セルガ米国石油業者ハ又墨國ニ於ケル他ノ同業者タル英国会社(El Aguila シテ Agwi)及 Agwi 会社ヲ筆頭トセル独立諸会社ガ「カラランサ」政府ノ政策ヲ支持シ其援助ヲ受クルコト大ナリトシテ平カナラザルモノアリ、之ニ対抗センガ為メ「トラスト」ヲ作り送油管、倉庫、道路、船舶ノ独占ニヨリ他会社ニ圧迫ヲ加ヘタルハ周知ノ事美ナリ、而シテ彼等ハ「カラランサ」政府没落シテ現「オブレゴン」政府ニ入ルヤ當初其自己ニ有利ナル政策ヲ予期シタルニ拘ラズ現政府ガ依然「カラランサ」政府政策ヲ套襲セルノミナラ

ズ石油新輸出税ノ賦課等ニヨリ「カラランサ」政府ヨリモ一層峻烈ナル態度ヲ示スニ及ビ全ク之ヲ敵視スルノ地位ニ立テリサレバ今日米国政府ガ未ダ「オブレゴン」政府ヲ承認セザルモ主トシテ之等石油業者ノ問題ガ有利ニ解決セザルニ因ルト称セラル、而シテ一方米国ニ亡命中ナル「ゴンサーレス」將軍ハ往年「オブレゴン」將軍ト共ニ墨国軍倒壊ノ為メニハ一時「オブレゴン」將軍ト提携セラモ一度政權獲得後ハ「オブレゴン」派ノ圧迫ニ堪ヘズ遂ニ米国ニ亡命ノ止ムナキニ立至リンモノニテ爾後機会アレバ一矢今日猶ホ墨国内ニ幾多ノ徒党ヲ有シ又彼自身巨万ノ富ヲ有スルニ鑑ミ現政府ニ対スル危険人物ノ一人タルハ固ヨリ言ヲ俟タズサレバ現政府ニ嫌ラザル米国石油業者ガ彼ヲ促ガシテ革命ヲ成就セシメ自己ニ有利ナル新政府ヲ擁立セント企ツルモ亦從来ノ歴史ニ微シ(過去十幾年間ノ墨国革命ニ於テ直接間接米国石油業者ノ干与セザルコトナシト称セラル)有リ得可キコトニシテ新聞紙ノ伝フル所ニヨレバ約六ヶ月以前ヨリ「ゴンサーレス」及前記「在墨

米人利益保護協会」トノ間ニ頻リニ何事カ画策セラレタルハ蔽フ可ラザル事實ニシテ現ニ其往復書類ヲモ發見セリト称セラル、而シテ一般国民ハ仮令米国石油業者ガ多額ノ金錢及武器弾薬ノ如キ之ヲ「ゴンサーレス」一派ニ供給シ得可シトルモ斯ノ如キ非愛國的ニシテ且何等名目ヲ有セザル革命ニ於テ到底多数ノ加担者ヲ得ベカラザルハ當然ナレバ失敗ニ終ルヲ寧ロ當然ナリトナセリ、尚ホ聞クトロニヨンバ「ゴンサーレス」トノ陰謀ニ敗レタル米国石油業者ハ他ノ經濟的方法ヲ拿出シ彼等ノ間ニ厖大ナル「トラスト」ヲ作り以テ倍旧ノ圧迫ヲ現政府竝ニ他ノ独立石油業者ニ加ヘントスル計画ヲ有スルカニ伝ヘラレ之ニ対シテ一方政府側ニ於テハ石油地帶ニ於ケル送油管、道路、倉庫及輸送船ヲ専用シ得ザル新法律ヲ制定セントノ議アリト伝ヘラレツアリ。

一、尚ホ前記「ゴンサーレス」將軍ノ陰謀ニ閑連シ繩ノ「ハウイラ」州軍司令官タル「アントニオ、ブルネダ、エル」中将ノ捕ハレタル事件アリ、同中将ノ妻ハ「ゴンサーレス」將軍ノ姪ニシテ予テヨリ「ゴンサーレス」一派ヲ以田セラレタルトヨロ近時同中将ガ窃カニ各地ノ軍人ニ對

一一 「メキシコ」革命動乱関係一件 二五三

三四〇

「レス」將軍ノ謀反ニ勧誘セラレタルノ事実ヲ発見セリ、依テ極力前記二名ノ捕縛ニ努メタルモ彼等モ亦危險ノ身ニ迫リタルヲ感知シ「チウアウア」市ヲ去リテ南方ヲ収メツツアル往年ノ革命ノ驍将「ヴィヤ」ニ投ゼリ、彼等ハ「ヴィヤ」ノ直チニ彼等ノ勧誘ニ応ジテ立ツ可キヲ予想シ語ルニ「ゴンサーレス」將軍挙兵ノ事ヲ以テシ「ヴィヤ」ニシテ之ニ組セバ多額ノ軍事費ハ「ゴンサーレス」及他ノ亡命者ノ手ヨリ之ヲ支出ス可シト告グ、然ルニ「ヴィヤ」ハ会談半バナラズシテ彼等ヲ逮捕シ急ヲ官憲ニ報ジ彼等ヲ引渡セリ、依テ彼等ハ「チウアウア」市ニ護送セラレ、軍法會議ノ結果同ジク一月十四日銃殺ニ附セラレタリ

一、最後ニ本月ニ入り「ミチヨアカン」州ニ於テ挙兵ノ騷擾事件ヲ釀シタルガ右ハ一時重大事件視セラレタルニ拘ラズ其真相判明スルニ及ビ地方的の騷擾ニ過ギズシテ何等中央政府ニ対スル謀反ヲ意味セザリシヲ以テ直チニ蜚語流説ヲ鎮メ平定ニ帰セシムルヲ得タリ、即チ該事件ハ同州知事「フランシスコ、ホタ、ムーヒカ」將軍ノ施政ニ対シ特右不取敢報告申進候也

ニ足ラズ而カモ多ク之ヲ未然ニ防ギツツアレバ墨国現政府ノ前途極メテ安固ナリト為セリ  
尚ホ今回米国政府ガ對墨武器輸出禁止ヲ解除セルハ偶叛徒ニ利便ヲ供スルモノト悲觀スルモノアルニ反シ政府ニ於テハ毫モ恐ルニ足ラズト揚言シ居レリ須ク今後ノ發展ヲ見ソカ

二五四 三月三十一日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ  
在米墨国亡命者ノ近状報告ノ件  
(四月四日接受)

歐三公信第九三号

大正十一年三月三十一日

在墨

臨時代理公使 伊藤 敬一 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

米国政府ガ今猶ホ墨国政府ヲ承認セザルニ乘ジ在米墨国亡命者ガ現墨政府ニ対シ種々陰謀ヲ企図セル趣ハ曩ニ及報告置候通リニ有之候処數ヶ月ニ亘リ北墨地方及米国境方面ヲ视察旅行シ最近帰府セル「ヘースス、エメ、ガルサ」將軍ガ為セル談話ノ要領ヲ左ニ及報候

一二 「メキシコ」革命動乱関係一件 二五四

ニ其農政方針ノ不法ナルニ対シ不平ヲ抱ケルノ徒ガ兵器ヲ擁シテ之ニ反抗セルヨリ發生セルモノニシテ其主領株ト目セラルルモノニ休職中將「イレネオ、ラウダ」休職中佐「フランシスコ、カルデネス」「ホセー、マリア、ギーサル」及嚮ノ同州「パックアロ」町長「ラディ・スラオ、マリーナ」等アリ、彼等ハ同州首都「モレリア」市ヲ包围セル各地ヨリ「ムーヒカ」知事ニ対シ反旗ヲ翻セル結果勢ヒ謀反ヲ以テ目セラルルノ止ムナキニ立至リタルモ「ムーヒカ」拳兵ノ徒ハ等シク墨国北西部第二軍司令官「エンリッケ、エストラダ」中將ノ前ニ帰順ヲ願出デ同中將之ヲ大統領ニ報告シ一同ヲ赦免セル結果何事モナクシテ同地方ノ安寧ヲ見ルニ至レリ

之ヲ要スルニ現政府ニ快カラザル国外亡命ノ徒ガ米国政府ガ墨国現政府ヲ承認セザルニ先ンジ其野望ヲ逞ウセントシ米国資本家ノ一派ガ之ヲ利用セントスル傾向アルハ否ム可ラザル事実ニシテ墨国朝野ガ承認ノ來ルヲ望ムハ主トシテ斯カル陰謀ノ種ヲ勦滅セント欲スルニ因ル、而シテ一方樂觀者ハ前記二三ノ事件ノ如キ何レモ区々取ル同氏ノ言ニヨレバ在米亡命者中現墨政府ニ対シ明カニ叛意ヲ有スルモノハ三者ニテ其一ハ「ペーブロ、ゴンサーレス」將軍其一ハ「フランシスコ、ムルギーア」將軍第三ハ嚮ノ下加州知事タル「エステバン、カソソ」大佐ナル由ニ有之候而シテ右三者ガ現政府ヲ敵トスルハ同一ナルモ彼等從前ノ關係其他ノ原因ニヨリ三者間ニハ何等ノ連絡ヲ有セズ個々ニ活動シツツアル由ニ有之候而シテ彼等ノ挙動ニ対スル米国当局近時ノ監視ガ從前ノ夫レニ比シ甚ダ厳重ヲ加ヘタルヲ以テ著シク彼等陰謀ノ余地ヲ狭メツツアリ例ヘバ「ゴンサーレス」將軍ノ党徒タル「イレネオ、ヴィヤレアル」「ペーブロ、リオハス」及「カソソ」ノ一味ナル「ニコラス、ロドリゲス」ノ徒ガ窃カニ国境ヲ越エテ北墨各州ニ出没シ事為ラズシテ再ビ米国ニ潜入スルヤ米国当局ハ直チニ彼等ヲ監禁シタル趣ニ有之而シテ之ガ出監保釈金ノ如キ從前ハ頗ル軽少ナリシモ現時一人ニ付一万弗以上ヲ徵シツツアリト云フサレバ「ゴンサーレス」將軍ガ米国石油業者ト提携セル陰謀ガ最近失敗ニ帰セルガ如キ又「カソソ」大佐ガ一度ハ下加州ニ於テ一度ハ「チウアウア」州ニ於テ事ヲ挙ゲントシテ全然失敗ニ了レル如キヲ始メトシ其他ノ密謀ノ如キモ到底成功ノ見込アルモノナク北墨地方一

三四一

一一 「メキシコ」革命動乱関係 一件 二五五

三四一

帶ハ平和ニシテ何等危惧ス可キ形勢ヲ認メズトノ事ニ有之候  
右及報告候也

二五五 四月一日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛

米国ノ墨国承認ニ関スル觀測報告ノ件

歐三公信第九四号 (五月一日接受)

大正十一年四月一日

在墨

臨時代理公使 伊藤 敬一 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

米国ノ墨国承認問題ニ關スル件

最近米墨両国ノ新聞紙ハ重ネテ米国ノ承認近ツキツツアリト報スルニ至リ候処茲ニ數週間ニ亘リ駐墨米國代理大使ト墨国外相トノ間ニ屢会商アリシハ事實ナルモ其結果ハ未タ承認ノ曙光ヲ認ムル迄ニ至ラザルコト事實ナルガ如ク被察候又現時ノ墨國ハ世上伝フル如ク実際「カラントサ」時代ニ比シ平和ナルモ最近ニ於テ北墨地方、「ヴェラクルス」州、「オアハカ」州ニ於テ叛賊出没スルニ至リ (多クハ平定認ハ速急ニ行ハレザルベシト觀測セラレ候)

モ空虚ニシテ官吏ノ俸給サヘ仕払フ能ハサルニ至ル故ニ墨國ニトリ最苦痛トスル所ハ此点ニシテ米国ノ乗ズヘキ点モ此所ニアリ) 故ニ千九百二十一年六月七日「ヒュース」國務卿ノ提示セル条件就中米人ノ所有セル物件ニ対シ (新憲法発布前ニ) 新憲法第二十七条ヲ遡及セシメザルコトヲ墨國ニ於テ承認シ之ヲ文書ニ認ムルコトヲ承認セザル限り承認ハ速急ニ行ハレザルベシト觀測セラレ候

抑モ米国ガ通商條約ヲ締結シ人保護ノ保障ヲ取ラントスルハ大ニ理由アルコトニテ仮令墨國政府ニ於テ幾度之カ保障ヲ声明スルモ口頭ノ約束ニテハ後ノ政府ハ勿論現時ノ政府ヲモ拘束スルノ実効ナキコト例ヘバ「オブレゴン」ガ外国人保護ヲ屢々声明セシニ拘ラズ土地ノ沒収ヲナシ西班牙商業會議所ハ墨國新憲法第十四条ヲ楯トシ抗議セシニ拘ラズ之ヲ撤回セズ又西國公使ガ屢次交渉セルモ何等ノ効ナカリシ如クナレバ米国ガ今更前言ヲ翻ヘシ無条件又ハ口頭約束ニヨリ承認ヲ行フコト無カルベキハ恰カモ「オブレゴン」ガ国会ノ大反対ヲ賭シテ條約ニ署名セザルガ如クナラン若シ夫レ新聞紙上伝ヘラルル如ク果シテ米国ノ承認近シトセバ其ハ「オブレゴン」ガ国会ヲ恐ルルニ足ラザル迄ニ有

セバ其ハ「オブレゴン」ガ国会ヲ恐ルルニ足ラザル迄ニ有

一一 「メキシコ」革命動乱関係 一件 二五六

セリト称セラルルモ) 数州知事ハ極端ナル社会政策ヲ實行シテ紛擾ヲ釀シ重要ナル工業地ニハ職工ノ同盟罷業絶エズ官民共ニ著シク過激派的傾向ヲ帶ブルニ至リシニ拘ラス中央政府ノ之ニ干渉スルコト甚ダ緩漫ナルアリ、又一般農工商業界不振ヲ極ムルアリ、凡ソ之等ノ事情ヲ綜合セバ仮令米国二三州カ承認ヲ要求シ「ハースト」系新聞ガ承認ノ必要ヲ高調スルモ(「ハースト」ハ墨國ニ土地ヲ所有スル為大ナル利害ヲ感ズル外墨國政府ト一種ノ默契アルガ如ク噂セラルルコト既報ノ如シ) 真實承認問題ハ未ダ大ニ進捗シ居ラザルモノト見ルヲ至当トセザル可カラス、尤モ墨國政府ニ於テハ可成米國ノ民心ヲ緩和シ同政府ノ歎心ヲ買ハんガ為自ラ進ソテ石油業者銀行業者ト折衝シ或ハ混同損害賠償委員会ノ設置(本件ニ関シ西班牙公使及支那公使ハ自家ノ功名ヲ欲シタル為墨國政府ト意見ノ交換ヲ行ヒ西班牙公使ハ右設置ニ關スル具体案ヲ提議シタル由ナルモ近時自ラ之ヲ撤回シ支那公使モ英、米、仏等ニ於テ之ニ応ゼザルニ先チ交渉スルコトノ愚ナルヲ悟リ近時ハ形勢ヲ觀望シツツアリ) ヲ申出テシモ石油、公債問題共ニ未ダ満足ナル解決ヲ見ズ(此重要問題解決セザレハ墨國政府ノ金庫ハ何時

力トナレルヲ証スベシト雖昨今ノ情勢ニテハ斯ク迄ニ有力ナリトハ思惟セラレズ候尤モ墨國政府ハ曩ニ石油輸出税ヲ約五割軽減シ本年三月十日ノ官令ヲ以テ墨国内亂中滯納セル鉱業税ニ對シ罰金ヲ科スル規定ヲ廢止セルガ如キ稍米國政府ヲ満足セシムルモノアリシガ如ク称セラレ候ヘ共大体ニ於テ承認ハ速急ニ來ラザル可シト觀測セラレ居リ候

右及報告候也

二五六 四月十九日 在米國佐分利臨時代理大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

米国ノ墨国承認近シトノ新聞報ニ關シ國務省

ニ真否ヲ確メタル件

第一〇八号 (四月二十日接受)

墨國政府承認問題ハ客月下旬又々當國新聞ノ注意ヲ喚起スルニ至リ或ハ墨國憲法遡及力ニ關スル同國大審院ノ判決或ハ對墨武器輸出問題ニ關スル國務省當局ノ態度或ハ墨國鉱業税滯納ニ關スル罰金免除例等ヲ引用シテ承認ノ時機既ニ近付キタルガ如ク報ジタルヲ以テ當時國務省ニ就キ其真否ヲ確カメタル處同省ノ態度ハ客年往電第三(註)三三号所報ト毫モ異ナル所無キ旨言明ヲ得タルカ最近新聞記者ノ質問ニ對

シ國務省ハ右同様ノ趣旨ヲ述ヘタル趣ナリ

墨西哥へ転電セリ

註 日本外交文書大正十年第一冊上巻四一二文書

一一五七 五月三十日 在米国佐分利臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ディアス將軍一派及力ランサンノ殘党ハディア  
スノ再起ヲ計リ革命宣言ヲ墨国各地ニ配布セ  
リトノ報道報告ノ件

第三四四号

(六月一日接受)

五月二十七日「テキサス」州 San Antonio 発華盛頓「ボス

ト」其ノ他ヘノ特電ニ依レバ過般來華盛頓ニ会シテ密ニ連  
合再挙ノ計画ヲ為シツツアルベシト伝ヘラルル Diaz 將軍  
一派及 Carranza ノ殘党ハ現政府ノ土地政策教会政策反  
対ヲ名シテ Diaz ノ再起ヲ図リ最近 Oaxaca 州ニ於テ革  
命宣言ヲ起草シテ之ヲ墨国各地ニ配布シタリトノトナル  
ガ右 Oaxaca 革命宣言ナルヤハ Oaxaca 以南七州ニ在  
ル各司令官ノ署名シタルモノニシテ國及各州ノ政府ヲ篡奪  
シタル者ヲ倒壊シテ一八五七年一月五日ノ連邦憲法ヲ復旧  
シ Felix Diaz 等軍ヲ仮大統領ニ指名スル目的ヲ以テ The

付左ニ之ガ顛末及報告候

一、「カランサ」政府時代「ヴュラクルス」州及「オアハ  
カ」州ヲ重ナル根拠地トシ兵ヲ擁シテ南方諸州ニ跋扈セ  
ル「フェリス、ディアス」將軍ハ「カランサ」政府没落ト  
共ニ現「オブレゴン」政府ノ前身タル「デラウエルタ」  
政府ト妥協ヲ遂ゲ兵ヲ解キテ身ハ米国ニ亡命セリ然ル処  
近時ニ至リ同將軍ハ紐育或ハ「ニュウ、オルレアンス」市  
ニ出没シ現「オブレゴン」政府倒潰運動ニ狂奔シツツア  
リト伝ヘラレタルガ果然五月十日ニ至リ同將軍ハ「ニュ  
ウ、オルレアンス」市ニ於テ一宣言書ヲ発表シ明カニ現  
墨政府反対ノ意ヲ示セリ該宣言書ナルモノハ米国亡命中  
ノ同志其他ニ配布セラレタルモノニシテ又墨国内ニモ舞  
込ミタルモノ尠カラズト称セラレタルガ其綱領トシテ  
示サレタルハ千八百五十七年制定墨国憲法ノ復活ヲ高調  
セルモノニテ同憲法第八十二条ノ精神ニ則リ現墨国大統  
領「オブレゴン」將軍ヲ全然大統領トシテ承認スペカラ  
ザルヲ極論シ更ニ現墨政府ノ失政ヲ數ヘ之ニ代ル可キ合  
法的政府ノ樹立ヲ急務ナリトシテ其自己ノ抱懷セル主義  
ヲ宣伝シタルモノナリトイフ而シテ同將軍ハ同志ノ糾

一一一 「メキシコ」革命動乱関係一件 一五八

army of national reorganization ノ組織スル旨ヲ述  
ヘ次テ一九一三年十月十日以前ノ法律ニ従ヒ選舉ヲ行フ迄  
統治ヲ行フヘキ仮政府ノ組織計画ヲ掲ケ居レリ當方各新聞  
ハ一般ニ右動乱報ニ重キヲ置カザルモノノ如ク或ハ大蔵  
大臣「ウエルタ」一行ノ華府行「ミッショソ」ヲ妨ゲント  
スル「プロペガンダ」ニ過ギズト観察シ Diaz ト「カラ  
ンサ」殘党トノ提携ハ行ハレザルベシト観測セリ

一一五八 六月五日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛

墨国最近ノ情勢ニ關シ報告ノ件

歐三公信第一五六号 (七月十四日接受)

大正十一年六月五日

在墨

臨時代理公使 伊藤 敬一 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

墨国最近ノ騒乱ニ關スル件

墨国現「オブレゴン」政府ニ対シ叛意ヲ有スルモノノ動靜  
並ニ騒乱ニ關シテハ去ル三月二十三日附欧三公第八一号ヲ  
以テ及報告候處爾後更ニ三事件ノ勃發セルモノ有之候ニ

米国各方面ノ援助ハ之ヲ求ムルニ由ナカル可ク墨国内ニ於テモ南方諸州ニ於テ少数ノ之ニ呼応スルモノノ外大ナル反響ナキモノノ如ク現政府当局又何等恐ルルニ足ラズト称シツツアリ

一、本年四、五両月ニ亘リ「ヴェラクルス」州「ウアステカ」地方ヲ中心トシテ「タマウリペス」「サン、ルイス、ボトシ」及「イダルゴ」諸州山中ニ於テ可成リ世人ノ注意ヲ喚起シタル騒乱ヲ惹起セルガ此等ハ多ク掠奪ヲ事トスル山賊ノ徒ニシテ政治上ノ主義主張ニ基ク叛乱ト稍其趣ヲ異ニセリ此等ノ叛徒ノ主ナルモノハEusebio Gorozave、前少将Rivadeneira、Ricardo Molaes、Lindero Hernandez、Amansio Jonguitud、Leon Martinez、Agustin Manuel Larraza、前少将Luis Castillo、Francisco Lopez Cortes等ニシテ何レ七十名乃至二百名ノ部下ヲ從へ各石油会社或ヘ耕地等ヲ掠奪スル賊徒ナリ就中前記「エウセビオ、コロサヴェ」ハ最近失業労働者約三十余名ヲ引卒シ「ヒル、アギラ」及「ウアステカ、ペトロレウム」二大石油会社所屬地ヲ襲撃シ数万「ペソ」ヲ奪取シ一時米国人間ニ恐慌ヲ生ゼ

シメ同地方在留ノ米人ニシテ統々「タムピコ」港方面ニ避難スルモノヲ見ルニ至りシガ同地方軍司令官「グアダルーペ、サンチエス」將軍ハ各地ニ兵ヲ配布シ極力之ガ掃蕩ニ尽瘁シ中央政府又之ニ援兵ヲ送リタルヲ以テ一先此等草賊ヲ屏息セシムルヲ得タリ但シ該事件ガ米人ノ生命財産ニ関スルヲ以テ米国新聞ニ誇大ニ報道セラレ一時事態重大ナルガ如キ觀ヲ呈シタルモ事実前述ノ次第ナレバ今後墨国政府ニ於テ同地方ノ兵備ヲ嚴ニセバ左シテ杞憂スルニ足ラザルベシト観測セラレツツアリ

一、去ル五月十九日墨市近郊「アツカボサルコ」ニ於テ墨国陸軍少将「サルヴァドール、ゴンサーレス」(Salvador Gonzales)ハ突然其自邸ニ於テ逮捕セラレタリ同少将ハ「カラサンサ」政府時代「ペーブロ、ゴンサーレス」將軍ノ幕下ニアリテ墨国東部軍ノ一部将タリシガ「カラサンサ」政府転覆ノ為メ「オブレゴン」將軍一派ノ軍人ト共ニ「アグア、ブリエタ」盟約ニ参加シ其企図成リテ「デ、ラ、ウエルタ」政府出現スルニ及ビ彼ハ「ヴェラクルス」州守備軍ニ転ジ更ニ「ペルト、メヒコ」港軍司令官ニ任命セラレタリ然ルニ其後ニ至リ「ペーブロ、ゴンサ

レス」將軍ト「オブレゴン」將軍トノ間ニ確執ヲ生ジ結局「ペーブロ、ゴンサーレス」將軍ハ米国ニ亡命シ現「オブレゴン」政府ノ時代ニ入ルニ及ビ彼ハ「ペーブロ、ゴンサーレス」派ノ軍人タルノ故ヲ以テ現政府ニ好カラズ遂ニ現役ヲ免ゼラレ前記「アツカボサルコ」ニ退引シ今日ニ及ベルモノナリ而シテ今回同少将逮捕ノ直接原因ト称セラルハ同少将ガ米国亡命中ナル「ペーブロ、ゴンサーレス」將軍ト氣脈ヲ通ジ窃カニ現「オブレゴン」政府顛覆ノ陰謀ヲ企圖セルニ因ルモノナリトセラレ政府ニ於テハ之ヲ立証スルニ足ル可キ數多ノ秘密書類ヲ入手セリト称シツツアリ尚ホ一方同少将ハ右事件ガ全然無根ノ事實ヨリ発生セルモノナル弁明シ且右嫌疑ハ恐ラク同少将ガ最近故郷タル「グレロ」州ニ於ケル數名ノ友人ヨリ現政府反対ノ陰謀ニ加入ヲ勧誘セラレタルニ対シ之ヲ拒絶セル上密カニ政府当局ニ之ヲ密告シタルニヨリ勧誘者ヨリ報復手段トシテ彼ガ「ペーブロ、ゴンサーレス」將軍ト何等カ闕係ヲ有スルモノノ如ク讒誣中傷セラレタルモノナラント自称シツツアリ之ヲ要スルニ該事件ガ果シテ「ペーブロ、ゴンサーレス」將軍ニ関連スルモノナ

リヤ否ヤハ裁判ノ決定ヲ待ツニ非ザレバ之ヲ明言シ難キモ「ペーブロ、ゴンサーレス」將軍ガ現政府ニ深怨ヲ抱キ其徒党ヲ糾合スルニ努メ常ニ何事ヲカ画策シツツアルハ否ム可カラザル事實ナルガ如シ

一、去ル五月一日「セルソ、セペダ」(Celso Cepeda)少將ハ「アエブラ」州「サン、アンドレス、チャルチムラ」ニ於テ其手兵ヲ提ゲ謀叛ヲ企テタリ同少将ハ其參謀長「ダヴィド、ブレトン」大佐ニ対シ同日墨市「ヴェラクルス」港間ノ旅客列車ノ襲撃ヲ命ジタルガ同大佐ハ其襲撃ヲ命ゼラレタル列車ニ便乗シ墨市ニ至リテ直チニ大統領ニ謁見ヲ乞ヒ「セペダ」少將謀叛ノ顛末ヲ報告セルヨリ政府ハ直ニ「アエブラ」州軍司令官「エリソン・ド」(Elizondo)中將ニ之方討伐ヲ命シ「エリソン・ド」中將ハ其部將「カナソス」(Canazos)少將ヲ派遣シ「ヴェラクルス」州「オリサベ」地方山中ニ遁入セル叛徒ヲ追撃セシメ五月十日ニ至リ「サンマルチン、オホ、デ、アグア」村近郊ニ於テ將ニ首領「セペダ」ヲ捕ヘントスルヤ彼ハ其到底遁レ得ザルヲ悟リ生擒ノ恥ヲ免ケレンガ為メ自ラ数百丈ノ断崖ヨリ其身ヲ投ゼリ而シテ該討伐隊ノ

一一 「メキシコ」革命動乱関係一件 二五八

三四八

報告スルトコロニヨレバ彼ノ投ゼル断崖ハ周囲皆深谿ニシテ到底之ヲ下ル能ハズ其生死ヲ見届クル能ハザリシト称スルモ彼ガ断崖下ニ無惨ノ最後ヲ遂ゲタルハ疑フ可ラザル事実ナルガ如シ而シテ彼ガ謀叛ノ動機ナルモノハ本報告後段ニ記述セントスル「タバスコ」州叛軍ト連絡ヲ有スルモノノ如ク其首領「カルロス、グリーン」、「ミゲール、アレマン」等ト氣脳ヲ通ジ墨市ニ於テ現陸軍大臣タル「セラノ」(Serrano) 将軍及墨市衛戍司令官「ガルサ」(Garza) 将軍ノ暗殺ヲ企図シテ成ラズ之ガ發覚ヲ怖レ急遽「プエブラ」山中ニ走リ叛旗ヲ翻セルモノナリト伝ヘラ又陸軍省側ヨリ出デタル一説ニハ彼ハ久シク墨市ニ於テ豪奢ナル生活ヲ営ミ巨額ノ負債ニ苦シミツアリシモノニテ現政府ノ為メ數ヶ月前予備役ニ編入セラレタルヨリ益々窮境ニ陥リ遂ニ列車襲撃等ノ暴挙ヲ企図スルニ至リシモノニテ何等政治的意義ヲ有セザル叛乱ナリトセラレタリ

1、「タバスコ」州前知事「カルロス、グリーン」(Carlos Green) 中将及「フェルナンド、セガヴィア」(Fernando Segovia) ノ一派ハ五月中旬突如「タバスコ」

州「フロンテラ」港ヲ襲撃シ一時之ヲ占領シ商家ヲ掠奪シ且同港税関ヨリモ数千金ヲ奪取シ同州山中ニ撤退セルノ椿事發生セリ此報一度至ルヤ墨国陸軍省ニ於テハ事態容易ナラズト認メタルモノノ如ク五月十八日陸軍大臣「セラノ」中将自ラ兵一千五百ヲ引卒シ之ガ討伐ニ向ヘリ該討伐軍ハ直ニ前記「フロンテラ」港ニ上陸シ同州軍司令官「モレーレス」將軍ト協力シ叛徒ヲ追撃四散セシメ漸ク討伐ノ目的ヲ達シタリ

而シテ「グリーン」等這般ノ暴挙ハ米国亡命中ナル「ディアス」將軍ノ革命運動ト何等カノ関係ヲ有スルモノノ如ク突然「フロンテラ」港ヲ占領シタル真ノ目的ハ「ディアス」將軍ガ送付スルカニ兼不テ噂セラレタル武器弾薬ヲ受領センガ為メナリント一般ニ臆測セラレ夫レカラヌカ墨国東海岸ノ沿岸防備ハ近時当局ノ最モ留意スルトコロトナリ出入船舶ニ対スル警戒又嚴重トナレルヲ以テ仮令「ディアス」將軍一派ガ果シテ噂セラルル如ク武器ノ輸送ヲ企ツルトスルモ之ガ目的ヲ達スルコト到底不可能ナル可シト観測セラレツツアリ

1、之ヲ要スルニ米国ニ亡命中ナル前「カラサンサ」大統領

残党、「フェリス、ディアス」將軍、「ペーブロ、ゴンザーレス」將軍、「フランシスコ、マルギア」將軍乃至前下加州知事「カンソーリ」大佐ノ徒ガ機會アル毎ニ若クハ機会ヲ作リテ現「オブレゴン」政府ヲ観覈スルハ之ヲ事実トスルモ彼等相互間ニハ甚シク利害関係ヲ異ニスルモノアリ特ニ「ペーブロ、ゴンザーレス」「フランシスコ、マルギア」兩將軍ノ如キハ亡命中ト雖モ深ク旧怨ヲ抱キテ相容サザルノ慨アリ彼等ヲ一団トスル大勢力ヲ形成スルコト最モ困難ナル如キ状態ニアルヲ以テ随テ目下ノ状況ヲ以テシテハ彼等個々ノ運動ガ到底現政府ニ对抗シ得可カラザルモノノ如シ

右及報告候也

一五九 七月六日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

白国ハ米国ニ先チ墨国承認ノ意思ナシト同国

公使談話ノ件

第二五号

(七月七日接受)

白耳義新公使來訪同國ハ米国ニ先チ墨国ヲ承認スルノ意ナシ故ニ自分ハ國書ヲ捧呈セズ又米國務卿ガ一旦申出セル条

一一 「メキシコ」革命動乱関係一件 二五九

二六〇

七月十一日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛

米国ノ墨国承認問題其他ニ関シ報告ノ件

附記 最近ニ於ケル米国ノ墨国新政府承認問題

機密公信第一二号

大正十一年七月十一日

在墨

臨時代理公使 伊藤 敬一 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

米国ノ墨国承認問題ハ其後著シキ進捗ヲ見ズ當國駐在外交官一般ノ觀測スル所ニヨレハ國務卿「ヒューズ」氏ガ一旦提示シタル条件ハ重大ナル理由ナクシテ之ヲ撤回スルコト無カル可キニ付今後一転機ヲ作ルベキ新局面ノ展開シ来ラザル限リ米墨ノ國交ハ依然現状ヲ維持スヘント云フニ一致ス又米国代理大使ノ語ル所ニヨレバ墨国藏相カ紐育ニ於テ外国銀行團トノ間ニナセル外債整理ニ關スル協定ハ米墨間に蟠る幾多問題ノ一部ニ過ギス此外ニハ尚損害賠償石油農

## 一二 「メキシコ」革命動乱関係一件 二六〇

三五〇

地鉱業ニ関スル重大ナル諸問題アルヲ以テ仮令今回ノ紐育協定ガ首尾能ク纏ルトシテモ之ヲ以テ直ニ米国ガ墨国ヲ承認スベシトナスハ早計ナリ況シヤ同協定ハ未ダ「オブレゴン」大統領ノ承認ヲ経ザルニ於テオヤ即チ同大統領ニ於テハ国会ノ協賛ヲ得ルヲ要スト称シ其承認ヲ延バシ「デ、ラ、ウエルタ」藏相ハ華府ニ立寄ラズシテ墨国ニ帰還セントス之レ其間ニ何等カ事情ノ存在スルモノアルニ非ザルカ（曾テ「カラランサ」政府時代ニ大蔵次官ヲ紐育ニ派シ銀行家ト協商セシメシガ時ノ大蔵大臣「カブレラ」ノ反対ニヨリ之ヲ承認セザリシコトアリ今回モ「カブレラ」ハ第一着ニ協定反対ノ声ヲ挙ゲタリ世人或ハ之ガ為「オブレゴン」ガ承認ヲ躊躇スト云フモノアルモ之ハ余リニ穿チ過ギタル説ナリト謂ハサル可カラズ、其ハ兎ニ角ニ回迄内閣會議ヲ開キ審議シタル上之ガ承認ヲ延期シタルハ其間重大ナル理由ノ存在スルヲ窺ハシムルニ足ルト雖モ未ダ的確ナル消息ニ接セズ）且近時米国籍ヲ有スルモノガ殺害或ハ攫ハルル者アリ又墨国内ニ於テモ地方ニボツボツ叛ヲ企ツルモノアリ反対新聞ニ對スル政府ノ圧迫モ益々甚シクナリ人ヲシテ「カラランサ」政府ノ末期ヲ偲ハシムル状態ヲ示シ来リ又大

### 目 次

- (一) 承認ニ関スル米墨両国ノ態度
- (二) 米墨両国態度接近
- (三) 承認ノ前途

(一) 承認ニ関スル米墨両国ノ態度  
米国政府ハ初メ墨国新政府ヲ承認スルニ先チ墨国内ニ於ケル米国人ノ生命財産ニ関スル保障ヲ求メタリシカ墨国憲法第二十七条ニ付迦及力ヲ認ムル時ハ財産ノ没収ヲ受クル米国人、少カラサルニ依リ一九二一年六月更ニ承認ノ前提トシテ米墨修交通商条約ノ締結ヲ提議シ右憲法發布（一九一七年）以前ニ取得セル米国人ノ財産權ニ対シ保障ヲ要求シ且ツ墨国革命及土地沒收ニ基因スル損害賠償委員会ノ設立及国境問題ノ解決等ヲモ提議シタルカ之ニ対シ墨国政府ハ無条件承認ヲ要望シ且ツ独立國ノ主權及国民ノ権利ヲ侵害スルカ如キ条約ヲ拒否スル旨ヲ公表セルヲ以テ墨国新政府承認問題ハ米墨両国要求ノ不一致ノ為メ容易ニ進歩スルノ見込無キヤノ観アリシカ該問題ノ解決カ墨国ニ取り政治上並ニ經濟上必要ナルハ掩フヘカラサル事実ニシテ米国側ニ於テモ亦米墨關係上両国外

統領ノ健康モ日毎ニ増悪シツツアル際故今暫クハ形勢觀望ノ外ナカラシカ云々トアリ  
又瑞典公使ノ本官ニ内話スル所ニヨレハ白耳義ハ現下仏國ト歩調ヲ合スルノ必要アル上ヨリ米国ニ對シ遠慮ヲ余儀ナクセラレ墨国ニ對シテハ可成親交關係ヲ表示シタキモ今日ノ所其程度ハ非公式ニ公使ヲ駐在セシメ之ヲシテ代理公使タラシムルニ止ル（前白耳義代理公使ノ密話ナル由）又仏國ハ米国ニ對スル債務ノ關係上之レ亦墨国ニ對シ好意ヲ表シ度モ遺憾ナガラ表面之ヲナシ得ザル境遇ニアリテ米仏ノ間ニハ仏カ米ニ先チテ墨国ヲ承認セザル可キ默契ノアルナキヤヲ疑ハシム又英國モ對米關係上稍仏國ト似タル実情ニアリ墨国ノ承認ヲ遲疑シ居ルガ如キモ何等カノ新転機ヲ捉へ單獨行為ニ出ヅルナキヲ保セズ否ナ夫レ位ノ自主的外交ハ之ヲ英國ニ望ミ得ルヲ信ズ云々トアリ  
右及報告候也

#### （附 記）

- 大正十一年五月末歐米局第三課調  
最近ニ於ケル米国ノ墨国新政府承認問題  
最近ニ於ケル米国ノ墨国新政府承認問題

## 一二 「メキシコ」革命動乱関係一件 二六一

### (三) 承認ノ前途

由是觀之米墨両国政府ノ要求漸次接近ノ觀アリタルヲ以

テ一九二二年三月下旬ニ至リ両国ノ新聞紙ハ重不テ上述ノ情勢ヲ陳述シテ米国ノ墨国新政府承認ノ時期近ツキツ

ツアリト報道シ世人ノ注意ヲ喚起シ此間駐墨米国代理大使ト墨国外相トノ間ニ屢々会商アリタル模様ナリシカ米国政府ハ現今尚依然トシテ一九二一年六月七日同国國務省發表ノ墨国新政府承認ノ前提条件ヲ固執シ此点ニ關シテハ何等ノ変更ヲ見サル旨声明シ居ル趣ニシテ他方墨国政府モ亦斯クノ如キ条件ノ受諾ハ断シテ不可能ナリトノ主張ヲ繼續シ居ルモノノ如クナルヲ以テ此点ニ關シ双方ノ意見合致セサル限り承認問題ノ急速的解決ヲ見サル可シト観測セラル

(高岡官補稿)

二六一 八月十八日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛

米国ノ墨国承認ニ関スル紐育通信証報ノ件

欧三公信第二〇五号

(九月二十一日接受)

大正十一年八月十八日

ト推察セラル)ノ談話トシテ報ゼルモノ左ノ如シ

墨国ガ米国ノ承認ヲ得ント欲スルニ於テハ米国ノ要求ニ對シ保証ヲ与フルコト絶対ニ必要ナリ而シテ墨国ガ之ヲ肯ゼザル限り承認ノ延引ハ之ヲ免レザル可ク其ガ責任ハ墨国政府之ヲ負ハザル可ラス蓋シ米墨国交復旧ノ為メ墨国ハ從来少クモ五回ノ機会ヲ逸シタレバナリ

第一、約一ヶ年半以前米国政府ハ墨国政府ニ對シ両国間ニノ修交通商条約ヲ締結センコトヲ提議セリ然ルニ「オブレゴン」大統領ハ之ニ応ズ可キ何等ノ方策ヲ執ラザリキ爾來米国政府ハ「オブレゴン」大統領カ該条約締結ニ反対スル障碍ヲ排除ス可キヲ信ジ隱忍今日ニ及ベルモ何等ノ進捗ヲ見ル能ハザリキ

第二ハ墨国蔵相「デ、ラ、ウエルタ」氏ガ紐育ニ於テ国際銀行団ト協商ヲ成立セシメタル當時ニシテ之ヲ機会ニ承認問題ガ一步ヲ進ム可キ観測セラレタルニ「オブレゴン」大統領ガ未ダ該協商ヲ批准スルニ至ラザルガ右ハ同大統領ガ同國議会反対党ト闘フノ意思ヲ有セザルカ又ハ其力量ヲ有セザルカ吾人之ヲ詳ニセズ

第三ハ墨国大審院ガ憲法第二十七条规定的効力ヲ有セ

一二 「メキシコ」革命動乱関係一件 二六一

在墨

臨時代理公使 伊藤 敬一 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

墨国承認問題ニ關スル件

米国ノ墨国承認問題ノ経過ニ關シ過般墨国外相「ペニー」氏ガ墨市新聞記者ヲ招キ談話セル所ハ既電ノ通ニテ大体ニ於テ樂觀ヲ許ス可キモノ有之候処其後米国ヨリ来ル新聞電報ハ毫モ局面ノ展開ヲ示サザル而已ナラス石油問題ニ關スル墨国大審院ノ判決ニ対シテモ米国國務省ニ於テハ満足ヲ表セズ此上ハ墨国々会ガ憲法第二十七条ノ細則ヲ制定スル迄承認問題ニ触ルルヲ欲セサル意向ナルヤニ報ゼラレ居候而シテ前記墨国外相ノ新聞記者ニ対スル談話ガ発表セラレシ以前即チ墨国蔵相ガ華府ニ至リ大統領及國務卿ト會見セル際紐育通信トシテ當地新聞紙上ニ掲載セラレシ所ハ承認問題ニ対スル米国ノ態度ヲ窺フニ足ルベキモノ有之候ニ付菅原通訳生ランテ別紙ノ通リ翻訳セシメ供貴質候也

(別紙)

紐育通信 (七月二十一日)

紐育「タイムス」カ米国一高官 (國務卿「ヒューズ」) ナリ

ザル可キヲ判決宣言セリト称セラレタル當時ニシテ右ハ米国々務省ノ要求ニ保障ヲ与フルモノナル旨屢々墨国側ヨリ唱ヘラレタルニ拘ラス國務省ニ於テハ今日ニ至ルモ右墨国大審院決定原文ヲ接シ能ハザルヲ以テ之ガ研究ヲ為ス能ハズ

第四ハ墨国農地法問題ニ關ス抑モ土地徵用ナルモノハ米国法律ノ精神乃至其主義ニ反スルモノト解釈セラルニ拘ラズ墨国ニ於テハ其憲法並ニ各州法律ニ拠ルモノトセラレタリ而シテ一方憲法第二十七条ガ遡及的効力ヲ有セザル可キハ「オブレゴン」大統領ニヨリ屢々之ヲ繰返サレ米国ハ好感ヲ以テ之ヲ聽取セルモ其個人的宣言乃至談話ニ類スル表明ハ未ダ以テ十分ナル公的保証ト見做シ能ハサルノ遺憾アリ

第五ハ蔵相「デ、ラ、ウエルタ」ノ華府訪問之ナリ之ヲ要スルニ米国ハ其自国人ノ権利ノ為メ修交通商条約ノ締結ヲ要望スルモノナルニ拘ラズ「オブレゴン」大統領ハ條約締結ノ権利ヲ有セズト主張ス之レ明カニ同大統領カ義ニ憲法第二十七条ガ遡及的効力ヲ有セズト為セル宣言ヲ薄弱ナラシムルモノナリ加フルニ今日猶ホ墨

一一 「メキシコ」革命動乱関係一件 二六二

三五四

国内ニ於テ幾多ノ米人財産ガ剥奪セラレツツアルアリ墨  
國官憲ハ財産徵収ノ場合之ガ代償ヲ与フ可シト声明シツ  
ツアルニ拘ラズ事実無賠償ノ事件多キヲ奈何、又之ガ賠  
償ヲ為スニ方リ米国ニ於テ何等価値ナキ債券ヲ以テ仕払  
ハルルガ如キコトアリ之ヲ要スルニ米国政府ハ墨国ガ其  
公衆利益ノ為メ其政策タル土地分割ヲ実施スルニ対シ必  
ズシモ反対スルモノニ非ズト雖モ之ガ履行ニ際シ正当ナ  
ル賠償ヲ要望スルモノナリ蓋シ「ハーディング」大統領  
ノ対墨政策ノ基調ヲ為スモノハ米人全体ノ権利ヲ確保セ  
ントスルニ存シ特種ナル一団ノ利益ニ基クモノニアラズ  
將又「ウォール、ストリート」ノ財團、石油業者等ノ利  
害ニ左右セラルモノニアラズ尙ホ銀行業者トノ協商モ  
「オブレゴン」大統領ニ於テ之ヲ批准セザル限り其効力  
ヲ生ゼザルハ勿論米国ノ特ニ重大視スルハ此等協商ノ批  
准ニ非ズシテ協商ノ目的ガ果シテ誠実ニ墨国ニ於テ履行  
セラルルヤ否ヤニアリ白亜館ノ態度ハ終始一貫シ他ニ為  
ストコロアランストスル米人或ハ其他外人ノ言ニ毫モ左右  
セラレザルモノナリ云々

而シテ「タイムズ」紙ノ伝フル所ニヨレバ前記宣言ハ國務  
第三〇号

(八月二十一日接受)

墨国外相ノ声明ハ一時国内ニ於テ好評ヲ招キシモ其後米国  
國務省ニ於テ墨国大審院ノ判決ハ個々ノ場合ニ對スルモノ  
ニテ石油問題全体ニ關スル前例トナラズ不満足ナリ此上ハ  
墨国国会ニ於テ憲法第二十七条ニ關スル細則ヲ制定スルヲ  
待ツノ外ナシト声明セル為承認問題ノ前途大ニ悲觀セラル  
尚ホ政府ハ十五日ヲ以テ成立スペキ通常議会ニ於テ政府派  
ヲシテ多數ヲ占メシムベク非常ノ運動ヲ為シ騎馬巡查ヲシ  
テ国会ヲ警衛セシメツツアリ又外相過日ノ声明ハ藏相ノ紐  
育ニ於ケル成功ヲ幾分ニテモ滅殺セントノ底意ヨリ出デシ  
モノラシク閣員中ニモ異議ヲ唱フル者アル由ナリ

第一、米国人ガ合法的ニ獲得セル財産權ヲ尊重シ之ガ保  
証タル可キ条約ヲ締結スルコト  
第二、米人所有土地ヲ徵収スル場合ハ正当ナル賠償額ヲ  
硬貨ヲ以テ仕払フ可キコト  
第三、墨国々会ガ憲法第二十七条ガ週及的効力ヲ有セザ  
ルヲ承認スルコト  
等ナルヲ明記シ「ジャーナル、オヴ、コムマース」紙「ペ  
ブリック、リージャー」紙「トリビュン」紙「ウーリ  
ド」紙「ヘラルド」紙等又之ト大同小異ノ説ヲ掲ゲ墨国ニ  
シテ前記米国ノ主張ヲ容レザル限り其承認ヲ得ルコト困難  
ナリト筆ヲ結ベリ

二六二 八月十九日  
在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

米国ノ墨国承認ハ悲觀的ナル旨ノ情報報告  
件

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

先日來「グランゴ」州山地ニ逃込ミ Tepehuanes ト称ス  
ル小村落ノ寺院ニ匿レ居タル故「カラナンサ」派ノ驍将陸軍  
中將 Francisco Murgua ハ十月三十一日官軍ノ為ニ捕  
虜ト相成リ翌十一月一日午前九時銃殺セラレタリ  
右及報告候也

(附 記)  
十月二十七日附在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ内田外務大臣宛  
欧三機密公信第一六号附屬書ノ一部

墨国最近ノ政情

故「カラナンサ」政府ニ反対シ「オブレゴン」政府ヲ樹立スル  
ニ功アリシ自由憲政党 (Partido Liberal Constitucio-  
nalista) ハ其閥將「ヒル」將軍ノ没後屢「オブレゴン」ト意  
見ノ扞格ヲ生ジ政党側ヨリハ「オブレゴン」ニ対シ「汝ノ  
政府ヲ樹立セルモノハ我党ナリ宜シク我党ノ意見ニ従ヒ我  
党員ニ酬ユル所アルベシ」ト強請セルニ対シ一度大統領ノ  
叛將ムルギア捕虜トナリ銃殺セラレタル件

附 記 十月二十七日附伊藤臨時代理公使ヨリ内田外務  
大臣宛欧三機密公信第一六号附屬書ノ一部

墨国最近ノ政情

欧三公信第一五八号

一一 「メキシコ」革命動乱関係一件 二六三  
(十二月十六日接受)

第一、「メキシコ」革命動乱関係一件 二六三  
(十二月十六日接受)

三五五

椅子ニ就ケル「オブレゴン」ハ内政外政上爾ク容易ニ一政党ノ意見ニ従フ能ハザル事情アリ「余ハ一党一派ノ為ニ擁立サレタルモノニ非ズ多数ノ意見ニ傾聴スルハ元ヨリ余ノ念トスル所ナルモ無条件ニ自由憲政党ノ政綱ヲ奉ズルモノニ非ズ愛国心ノ命スル所ニ従ヒ其最善ヲ尽スペシトハ余ガ選挙戦ニ際シ屢声明セル所ナリ」ト称シ両々容易ニ相下ラズスクシテ前期議会ハ多クノ重要案件ヲ議了スルニ至ラス空シク国政ヲ廃セルノ觀アリスル間ニ自由憲政党ノ一首領株ニシテ工商労務大臣タリシ Lic.Rafael Zubaran Capmany ヘ既報ノ如ク其弟ガ下院議員トシテ将タ大臣ノ金弟トシテ石油利権獲得者ノ為不當ノ便宜ヲ計リタル事実ヲ議会ニ暴露セラレタル為辞職スルノ曰ムナキニ至リ同氏ト密接ナル關係ヲ有スト称セラレン農政党（Partido Nacional Agrarista）ノ首領ニシテ農務勸業大臣タリシ General Antonio I. Villareal セ其本務ヲ閑却シテ農政上只管田家ノ政治的地盤ヲ造ルコトニ没タシタル為メ議会ノ内外ニ於テ非難多ク政府ノ術策ニ陥リ自家ノ郎党中央農政委員会ハ大統領ヨリ公然非難セラレタル結果終辞職ヲナシタル為彼農相モ前記「スペラン、カブマリー」氏ニ先チ

失脚スルニ至リタルヲ以テ政府ハ第一着ニ是等異分子タル二大臣ヲ閣外ニ逐ヒ引続キテ無能ノ陸軍大臣「エストラダ」將軍ヲ農相後任タラシメント称シテ辞職セシメ政党操縦上多大ノ便宜ヲ感ジ自由憲政党其他ノ切崩シニ功ヲ奏シ昨年十二月末日議会閉会前即同月三十日常置委員会ノ選挙ニ当リ政府側奮戦ノ結果四票ノ差ヲ以テ勝利ヲ得タルガ之ハ主トシテ内相「カエス」及副相「デ、ラ、ウエルタ」ノ政友ヨリ成ル社会民主党（Partido Social Demócrata）ヲ中堅トシニ農政党、労働党、南東社会党、国民協同党ヲ加ヘ自由憲政党ニ対抗シタルモノニテ其前後ニ於ケル議会ノ周囲ハ殺氣ニ充チ雙方示威運動ノ結果多数ノ負傷者ヲ出シ警察隊ニテ之ヲ鎮ムル能ハズ軍隊ノ出動ヲ見タル位ナリキ常置委員会ノ選挙ニ効ヲ奏セシ政府側ハ更ニ結束ノ必要ヲ感シ本年一月五日 Confederación Nacional Revolucionaria ナル大収下「前記 Partido Social Demócrata, Partido Laborista Mexicano, Partido Nacional Agrarista, Partido Socialista del Sureste 及 Partido Cooperativista Nacional」連合シタル本年七月一日ノ国会議員選挙（下院ハ一年毎ニ選挙、上院ハ一年毎ニ半数改

選）ニ際シ大勝利ヲ得下院ニ於テハ政府党絶対多数ヲ占メ上院ニ於テモ独立議員ヲ併セ過半数ヲ制スルニ至レルガ其後下院ニ於テ議員ノ選挙審査ヲ為スニ方リ連合派間ニ意見ノ衝突ヲ生ジ各派其戰利品ヲ争ヒタル為メ既ニ共同ノ敵ヲ失ヘル後トテ其連合ヲ持続シ能ハズ僅々半歳ノ後ニ於テ解散スルニ至リシハ墨国ノ政党ニ訓練ナク離散集合ノ常ナキヲ証スルモノナリト雖国民協同党ハ尚ホ下院ニ過半数ヲ占メ政府側ニ立ツフ以テ政府ニ於テ能ク本党ヲ操縦スルヲ得バ本期議会ヲ無事ニ終了スルヲ得從テ次期大統領ノ選挙ニ備フル為各州知事及各州議員各市会議員（今日ノトコロ墨市ヲ始メ数多ノ市会議員ハ自由憲政党多数ナリ）ノ改選ニ際シ十分ノ勝利ヲ予期スルヲ得ベシト雖モ既記ノ如ク墨国ノ政党ニハ何等ノ訓練ナク主義ノ下ニ集マルト言ハシヨリハ寧ロ小数首領ノ為操縦セラルモノナレバ是等ノ首領株ニシテ政府ニ対シ不満ヲ抱カシカ何時政府ニ対シ反噬センヤモ不計殷鑑現ニ自由憲政党ニアリ政府ノ戒心ヲ要スル所ナリト雖又一方ヨリ言ヘバ墨国ノ政党ハ政権ト離レテ繁栄存在シ能ハザル事情アルヲ以テ結局政府ハ政党ノ離集ヲ自ラ画策シ得ルノ便宜ナル地位ニアルモノト云フヲ得ベシ

## 一一一 「メキシコ」革命動乱関係一件 一二六三

三五八

死地ニ陥リタル前例ニ徵シテ明カナレバ賢明ナル「オブレン  
カ」ニ於テ之ヲ躊躇スベキハ勿論ナリ然レバ現墨国政府

ノ前途ニハ幾多ノ難闘暗礁横ハリ居ルヲ想像スルニ難カラ  
ス

今議会ニ反映セル各政党ノ勢力ヲ一瞥セソニ下院ニ於ケル  
党派別く

Partido Cooperativista Nacional

Partido Laborista Mexicano

Bloque Social Demócrata

Partido Nacional Agrarista

Partido Socialista del Sureste

Partido Liberal Constitucionalista

Independientes

ニシテ其議員数ハ大約（現在ノ所自由憲政党ヲ除キ総テ政  
府派ト見ルヲ得ベシ）

協同党 一百一十

農政党 五

労働党 七

社会党 六

自由憲政党 四 独立 七

今前記各党派ニ關シ少シク説明セソニ

### (+) Partido Cooperativista Nacional ハ今迄議会ニ多ク

議席ヲ有セズ主トシテ墨市參事会員ノ選挙ヲ争ヒ常ニ自  
由憲政党ニ打破ラレ居タル際自由憲政党ノミノ後援ヲ得テ

當選スルコトハ幾多ノ後難ヲ貽ス憂アルヲ以テ单ナル  
党一派ノ擁護ヲ受ケズト称シ本協同党ヲモ利用シタル関

係上常ニ政府ヲ援助シ来レルモノノ如ク昨年来大ニ党勢  
ヲ拡張シ自由憲政党議員ヲ買収シ今ヤ彼ニ代リテ多数党  
レナルニ至リシモノ其主義綱領ニ関シ同党總理 Juan

Manuel Alvarez de Castillo 及副總理 Jorge Prieto Laurens ノ語ル所ニヨレバ

抑モ墨国ハ天与ノ資源ニ豊富ナルヲ以テ之ヲ開発シ以  
テ国民生活ノ基礎ヲ確実ナラシムルコトヘ各政党ノ最

留意研究セザル可ラザル所ナリ

然ルニ多年ニ亘ル革命動乱ノ結果国家産業ノ受ケタル  
打撃甚シク其創痍ヲ癒スルコト一朝一夕ノ事ニ非ズ又

一方国民ノ主権トナリ天然富源ノ開発ニ当ル可キモノ

ハ無産階級ナルニ鑑ミ吾党ハ飽迄之ヲ指導啟發シ社会  
階級ノ争闘ヲ緩和シ經濟的協力ト道徳的一致協同ノ実

ヲ挙ゲシメ以テ國家産業ノ基礎ヲ確立シ漸進的ニ社会  
組織ノ改善ヲ期スルモノナリ故ニ吾党ハ特ニ農民階級

ノ指導誘掖ニ努メ其利益ヲ保護シ其團結ヲ計リ地方行  
政ノ完備都市自治政ノ發達ヲ期シ徵稅ノ公平ヲ期シ政  
治思想ノ伝播ニ力ヲ注ギ教育ノ自由ヲ尊重シ特ニ農民

階級ノ教育普及ヲ計リ其道徳的向上と同時ニ經濟的改  
善ヲ期スルモノナリ

從テ農政問題ニ關シテハ大農地制ヲ排シ小農地制ヲ主

張シ人民共有地ヲ返還シ新農地法ノ適用ヲ勵行シ租税  
ヲ輕減シ國家事業トシテ灌漑工事ヲ起シ鐵道布設ノ完  
備ヲ期シ飽迄農民階級ヲシテ社会階級ノ中枢タラシメ  
シトス

從テ吾党ノ特色トスル所ハ全国各地ニ支部ヲ有シ吾党  
ノ主義綱領ニ準拠シ各地方ノ社会的情勢ニ順応シテ地  
方問題ヲ解決セシメ本部ハ大体ニ於テ之ニ干与スルヲ  
好ヤザルニアリ

一一一 「メキシコ」革命動乱関係一件 一二六三

三五九

將又外交問題ニ關シテハ吾党ハ各国ノ平等、國家ノ制

度、主權ノ尊重、外国人優越權ノ排斥ヲ主張シ各外国  
ト平和關係ヲ維持センコトヲ期ス

又吾党ハ仮令議会ニ於テ絶對多數ヲ制スト雖決シテ政  
府ノ顧使ニ甘ズルモノニ非ズ吾党各員ハ Proletari-  
anism ノ下ニ集合スルモノニチ各員皆主義主張ノ自

由ヲ有シ党ノ情実ノ為拘束サルルモノニ非ズ云々

(+) Partido Nacional Agrarista ハ農地問題ニ關シ農  
民ノ利益ヲ増進ヘルカ主義トスルモノニテ Partido Co-  
operativista Nacional ハ大体ニ於テ主義ヲ同ウスト雖今  
ヤ協同派ト連合ヲ破レリ

(+) Partido Laborista 、 Partido Agrarista ガ農民ノ  
利益ヲ尊重主張スルト同ジク主トシテ労働者ノ利益ヲ眼

目トシ主張スルモノニテ議会内外ニ於テ過激ノ言論ヲ弄  
シ労働者ノ示威運動ヲ煽動ス内相「カエス」ト好シ協同  
派ト連合ヲ破レリ

(+) 社会党中央ニハ南東社会主義派（「ユカタン」州）ト社  
会民主党和アリ執レモ過激ナル言語ヲ弄シ藏相「ヂ、  
ラ、ウエルタ」ト好シ両派互ニ連絡アリ協同派ト連合ヲ

三五九

111 「メキシコ」革命動乱関係一件 11KIII

破ノニ

⑤ Partido Liberal Constitucionalista く派員多ク今  
ハ政府認可 Cooperatista く貿易セラム僅カ「余端ヲ保  
トハヘ」  
ト院各党派ノ首領株左ノ如ク

Partido Cooperatista Nacional :

Lic. Juan Manuel Alvarez de Castillo 本党總

州リシトア弁護士職ト八年鑑三十九歳ナコム自ラ称ヘ  
「ベニベニ」州選出

Jorge Prieto Laurens 「キハ、ルイバ、モーレン  
ー」州選出代議士ト十九歳三十九歳ト於ケ  
本党唯一ヘ闘将ナリ

Froylán Manjarrez 墨西哥聯邦郡選出代議士リハ  
小現「ハリハリ」州知事義ニ本党總理タリシヨトヲ

Lic. Gustavo Arce 墨西哥聯邦郡選出、義ニ社会民  
州党總理タリハコトト右ヘ外一時社公民主党ニ屬セ  
ハ「タマウリペス」州選出 Lic. Eliseo L. Céspedes

中本党ニ入籍セリ

Partido Laborista Mexicano:

Luis N. Morones 墨西哥聯邦郡選出代議士陸軍被  
服工廠長ニシテ純然タル労働者上リナルモ常ニ過激ナ  
ル行動ヲ為シ部下ノ労働者ヲ率ヒテ示威運動ヲナスロ  
ト頻リシシテト院一方ノ重鎮ナリ、外ニ Rafael Vill-  
anueva トニ年鑑三十九歳位純然タル労働者上リナリ

Partido Nacional Agrarista:

Lic. Antonio Diaz Soto y Gama

「キハ、ルイバ、モーレン」州選出代議士弁護士ヲ職  
トシ年鑑四十歳位、過激社会派ニモ分類セラル可キ人  
物ナルガ前農相「ヴィヤントル」失脚後本党ノ牛耳ヲ  
執ルニ至レリ、故「サバタ」ハ部下ニアリテ法律顧問  
タリ長ク「カラホナ」政府ニ反抗シ農地政策ヲ実行セ  
ルモノナルガ極端ナル議論ヲナシ国民大部分ヨリハ余  
ニ歓迎サンズ要スルニ一種ノ政治屋ナリ

Partido Socialista del Sureste:

Felipe Carrillo Puerto 「ハカラタ」州ノ知事ニシテ  
年鑑三十七歳位、弁護士職トベ本党ノ總理ナリ

Partido Social Demócrata :

Reynaldo Esparza Martinez 「ベニベニ」州選出

Dr. Aurelio Manrique 「キハ、ルイバ、モーレン」

州選出  
孰ニヤ少壯鋭ノ人物リシテ院内ニ私暴ナル議論ヲ弄  
ハ院外ニ於キヤ屢示威運動ヲ煽動ベ極端ナル政見ヲ有

Partido Liberal Constitucionalista:  
Eduardo Vasconcelos 「キハ」州選出及Dr. Sin-  
rob 「ハニタ」州選出年鑑三十五、六歳ナリ敗残ノ  
状員ト澤シト院内ニ半叶ハ執リ奮戰ベ  
上院各党別左ノ如ク

Partido Cooperatista Nacional リ小過半数ヲ制

① Bloque Liberal Independiente ベ  
其首領人物ハ Dr. Pedro de Alba (協同党) 院内總  
理) José D. Aguayo 及 Lic. Elcazar del Valle (獨立  
派ノ院内總理) トツ、又 Lic. Alfonso Cravioto 出  
前ニ「カラハナ」派ノ錚々タル闘將ナリシガ最近協同党  
ハ轉ヤシラビテ世人ハ聊カ政治家トシテノ氏ノ節操ヲ疑  
ハヌ雖若シ飽迄ヤ「カラハナ」派殘党トシテ闘ハシカ或  
其身込ニ大ナル危険ナシトヤベ此点ハ多少怨ス可キ点

近時「カラハナ」派ノ殘党前陸軍中将 Francisco Mir-

guida 米国ヨリ国境ヲ踰エテ墨國ニ入り込「チウトウ  
ト」州ニ乱ラ起センガ官軍ノ為ニ破ラシ「ベニベニ」州  
山地ニ逃込み刻々官軍ノ追撃ヲ受ケシタルモ此ノハ  
山地ハ大部隊ヲ動カス能ハザルヲ以テ官軍ハ僅々一、二  
十ノ兵ヲ各所ニ分遣シ彼ヲ囊封セントシツアリ或ベ  
「マルギア」ハ既ニ米国ニ逃竄セリトモ称セラルガ抑  
モ彼ガ最近斯ノ如キ活動ヲナスニ至リシハ米国ニ亡命セ  
ル墨国人中「トゥアベ」派、「カラハナベ」派、「マ

「エヌ」派、「カラランサ」派其他ノ政客ニシテ現墨国政府ニ好意ヲ有セザル連中ガ近時米国ニ於テ一株式企業会社ヲ組織シ米国人中ニモ多数ノ株券ヲ売付ケ以テ得タル資金ニテ武器弾薬ヲ購入シ「コアウイラ」州「タマウリパス」州「グランゴ」州「チウアウア」州等ニ於テ同時ニ乱ヲ起サシムル目的ヲ以テ「マルギア」ヲ其総指揮ニ当ラシメタルモノナルガ先般「ファレス」市ニ駐屯セル官軍中一揆ノ起リシハ即チ其第一歩ニシテ此一揆ニシテ成功センカ各地ノ同志ハ一時ニ叛ヲ挙グル筈ナリシモ幸力不幸カ右一揆ハ直ニ鎮圧セラレ剩ヘ「ファレス」市ノ亂ニ乘シ夜暗ヲ利用シテ密輸入セシ武器弾薬サヘ発見セラレ此大計画ノ叛乱ハ其第一歩ニシテ失敗スルニ至レリ然レドモ右ノ如キ計画ハ今後モ尚隨時隨所ニ起ルベク現時ト雖国内不平分子ハ小叛ヲ挙ゲツアリ否ナ斯種叛乱ハ寧ロ日ヲ逐ウテ増加スルヲ観アリ是レ畢竟墨国人ノ復讐心強ク且シ飽キ易キ国民ナルヲ証スルモノニテ「オブレゴン」大統領任期ノ後半ハ故「カラランサ」政府ノ末期ニ等シキニ至ランカ(「マルギア」)ハ其後捕虜トナレリ)

因ニ強賊「ヴィヤ」ヘ今ヤ「カヌティヨ」耕地ニ引退シ居ルモ全ク「オブレゴン」ニ心服シ居ルニ非ラズ彼ハ寧ロ「デ、ラ、ウエルタ」ノ親友トシテ暫ラク其活動ヲ中止シ居ルニ過ギサレバ彼ニ対シテハ政府モ油断スル能ハザルベシ唯「デ、ラ、ウエルタ」ハ「カラランサ」ノ革命中文官トシテ各革命將軍ノ間ニ外交官的地位ニアリテ斡旋セシ為メ孰レヨリモ怨ヲ買ハザリシ而已カ却テ彼等ノ便宜調停ヲ計リシ為「ヴィヤ」ニモ氣受ヨク今日彼ヲ抑制シ得ルモノ單リ「デ、ラ、ウエルタ」アルノミト云フ労働問題モ逐日悪化シ各地ニ同盟休業アリ労働者ノ鼻息ハ益荒ラク外国人ノ此間ニ入込ミテ職業的煽動ヲナスアリ労資調停問題ニハ政府モ大ニ困難シ居ル有様ナリト雖世人ノ信スルガ如ク墨国ニハ真ニ過激主義ヲ了解セルモノナク一知半解ノ徒ガ外国人ノ職業的煽動者ニ誤導セラレ居ルニ過キズ故ニ最近ニ至リ政府ハ盛ニ好マシカラザル有害ナル外国人ヲ憲法第三十三条ニヨリ放逐シソアリ

以上

追加(十月三十一日)

十月三十日夜「ボストン」市ニ於テ「ヒュウス」國務

卿ガ為シタル演説中「墨国ニ対シテハ吾人ハ完全ナル親

交關係ヲ欲ス、故ニ現今公式ニ外交關係ノ存在セザルコ

トヲ遺憾トスルモノナリ

吾人ハ墨国ノ内政ニ干渉スルノ意ナシ、又墨国ニ対シ今

後如何ナル法律ヲ制定スペシト提議スルガ如キハ吾人ノ

為スベキ所ニアラズ、即チ墨国ハ吾国ト同ジク其国内政

策ニ関シ自主ノ権ヲ有スト雖モ外交關係ノ運用ニ関スル

主義原則ハ之ヲ明白ニセザル可ラズ故ニ墨国ハ其國際義

務ヲ履行シ外国人ノ財産ヲ沒收シ又ハ財産所有権ヲ否認

スルガ如キコトアル可ラズ、吾人ハ財産沒收ニ関シ特ニ

米国市民ニ限り或種ノ要求ヲナスモノニ非ズト雖近年ノ

経験ニ徴シ其保護ノ実効アランコトヲ希望ス依テ過去ノ

歴史ヲ爰ニ繰返ス必要ナシ問題ハ至テ簡単ニシテ其解決

ノ鍵ハ墨国ノ手中ニアルモノナリ」云々トアルニ鑑ミ從

來屢報告セル米国ノ承認問題ニ関スル態度ヲ揣摩スルニ

足ランカ

## 叛將故ムルギアノ後繼者ニ関スル件

歐三公信第二六二号

(十一月十六日接受)

大正十一年十一月三日

在墨

臨時代理公使 伊藤 敬一(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

当市新聞紙ノ伝フル所ニヨレバ米国ニ亡命シ「オブレゴン」政府ニ反対スル墨国政客特ニ「パブロ、ゴンサールス」「カンツー」「デイアス」「ペラエス」等ノ連合ヨリナル革命軍ノ急先鋒トシテ去ル八月ヨリ機会ヲ狙ヒ墨国ニ入り叛ヲ企テシ總司令官「フランシスコ、マルギア」ハ武運拙ナク政府軍ノ為ニ捕ハレ銃殺セラレタルコト既報ノ通リニ有之候處同人ガ米国ヲ去ルニ方リ其夫人ニ遣セル密封遺書ニヨレバ同人ガ捕虜トナルカ又ハ戦死シタル時仮ニ故「カラランサ」ノ女婿「カンディット、アギラル」ヲ其後繼者トシ追而各將軍ノ合意ニヨリ總司令官ヲ選定スペシトアリ「アギラル」ハ「ヴェラクルス」州ノ出身ニシテ同州ニ於テハ今尚多数ノ同情者ヲ有ストノコトニ有之候

右ハ未タ確報ニ接セザルノミナラズ「アギラル」ハ當分ノ  
二六四 十一月三日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ  
一一 「メキシコ」革命動乱関係一件 二六四

一一 「メキシコ」革命動乱関係 一件 二六五 二六六

間全然政治ニ関係セズト宣言セシコトアリ且「バブロ、ゴンサーレス」ト折合悪シキ旨ノ矛盾セル情報モ有之候ヘ共墨国人ノ離合集散ハ逆睹スペカラザルモノ有之候ニ付鬼ニ角前記ノ如ク噂セラルコト丈ヲ及御報告候也

二六五 十一月二十一日 在墨国古谷公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

墨国憲法問題ニ関スル米国側ノ批判的申入二

対シ墨国側ハ自國ノ立法ニ外國ノ干渉ヲ宥サ

ザル旨回答セル趣フ墨国議会ニ公表ノ件

第五五号 (十一月二十一日接受)

(二十七条細則問題ニ関スル「カエス」ノ対議会公表)

十一月十七日「カエス」内相ハ大統領ノ命令ニ基キ下院ニ

対シ大要左ノ如キ発表ヲナセリ

米国代理大使ハ十月十九日附「ペニー」外相宛私信ヲ以テ

憲法第二十七条施行法草案ナルモノヲ送附シ来り右草案ノ

Official copy ヲ貰ヒ受ケタント申越セリ之ニ対シ外相ハ

施行法案ガ議会ニ提出サレ次第其写ヲ供与スベシト答ヘタ

リ越エテ十一月十五日米国代理大使ハ華盛頓ヨリノ訓令ト

シテ右草案ノ如キ細則ヲ以テシテハ墨国ニ於テ取得セル米

三六四

国人ノ利益ヲ保護スルニ充分ナラズト思考ストノ趣旨ヲ覺書ヲ以テ通告シ来レリ之ニ対シ外相ハ大統領ノ訓令トシテ

十一月十六日附ヲ以テ大統領及外相ハ米国政府ガ施行法草

案ナルモノヲ何レヨリ入手セルヤヲ穿鑿セザルベシ但シ墨

国ノ主権ハ自己ノ立法ニ付予メ外国政府ノ censor ヲ受ク

ルヲ許サズト回答セリ就テハ政府ハ議会ガ常ニ国民ノ利益

ヲ念トシ外国政府ノ influence ニ左右セラルコトナカ

ランコトヲ望ム云々右ニ対シ下院ハ政府ノ希望ニ共鳴スル

旨ヲ決議シタルガ新聞所報ニ依レバ各議員ハ其党派的区别

ヲ忘レテ何レモ行政部ノ対米愛国的回答ヲ賞讃シ右草案ヲ

密ニ入手シタル米国ノ spy system ヲ呪ヒ議場ハ騒然ト

シテ敵愾的ノ光景ヲ呈セリト云フ

在米大使ヘ暗送セリ

二六六 十一月二十一日 在墨国古谷公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

米国代理大使ノ対墨覚書問題ニ関スル新聞紙

論説要旨報告ノ件

第五六号 (十一月二十四日接受)

米国代理大使ノ対墨覚書問題ハ当地ノ人心ヲ沸カシ居ル処

往電第五五号ニ関シ

二十日ノ「ウニベルサル」論説ハ今回政府ガ米墨間ノ応酬

ヲ公表シタルハ憲法二十七条ト関係ノ石油法問題ニ関シテ

存スル鬼角ノ誤解ヲ一掃スル目的ナルベシト述べタル後思

フニ米国如何ニ横暴ナリトスルモ外交的仮面ヲ脱ギ棄テテ

墨国ノ内政ニ干渉セントスルモノニ非ザルベク要スルニ公

文書ヲ以テ斯ノ如キ通告ヲ為シ来レルハ「サンマリン」ノ

外交的機略ニ欠ケタル事ヲ表明スルモノナルベシトノ趣旨

ヲ述べ「エキセルンオル」論説ハ米国國務卿ガ米国ハ墨国

ノ内政ニ干渉スルノ意無シト声明セルハ当然ノ事ナルガ其

声明中施行法案ニ対シ意見ヲ述べタルハ墨国側ヨリノ懇意

ニ依ルモノナリトノ一節アルハ腑ニ落チザル処ニシテ我政

府ハ果シテ斯ノ如キ懇意ヲ為シタルモノナリヤ若シ然ラズ

トセバ其ハ米国側ノ誤解力或ハ自己ノ非ヲ掩ハントスル窮

言ナルベシ此点ハ明白ナランムル必要アリトノ趣旨ヲ述ブ

在米大使ヘ転電セリ

二六七 十一月二十一日 在墨国古谷公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

米国代理大使ノ対墨覚書問題ニ関シ墨国外務

省公表ノ件

一一 「メキシコ」革命動乱関係 一件 二六七

国人ノ利益ヲ保護スルニ充分ナラズト思考ストノ趣旨ヲ覺書ヲ以テ通告シ来レリ之ニ対シ外相ハ大統領ノ訓令トシテ

十一月十六日附ヲ以テ大統領及外相ハ米国政府ガ施行法草

案ナルモノヲ何レヨリ入手セルヤヲ穿鑿セザルベシ但シ墨

国ノ主権ハ自己ノ立法ニ付予メ外国政府ノ censor ヲ受ク

ルヲ許サズト回答セリ就テハ政府ハ議会ガ常ニ国民ノ利益

ヲ念トシ外国政府ノ influence ニ左右セラルコトナカ

ランコトヲ望ム云々右ニ対シ下院ハ政府ノ希望ニ共鳴スル

三六五